

「都市のプライマリ・ケア」とは何なのか？

金子 淳

横浜市立大学大学院データサイエンス研究科ヘルスデータサイエンス専攻 医学部臨床疫学・臨床薬理学講座

今月の特集は「都市のプライマリ・ケア」です。「“都市の”プライマリ・ケアとは何なんだ！」「プライマリ・ケアはプライマリ・ケアだろう、これ以上分断するな！」というお叱りの声もあるかと思いま



必要なコンピテンシー、「都市のプライマリ・ケア」を研究するために必要な定義や尺度、卒前・卒後教育、地域ケアなどのトピックスについて、日々実践している先生たちの熱い気持ちに触れることができます。

す。筆者としても、いたずらに分断を増やしたいわけではありません。むしろ、これまで光が当たりにくかった「都市のプライマリ・ケア」の魅力を発信して、プライマリ・ケアの幅広さ、面白さをさらに感じていただければと思っています。



以下、特集の内容について紹介します。

セクション1は、『ひとり空間の都市論』¹⁾などの著者である南後由和先生と、『健康格差対策の進め方：効果をもたらす5つの視点』²⁾などの著者である近藤尚己先生と、そしてカリスマ家庭医・藤沼康樹先生との座談会「都市とは何か？都市の健康問題とは何か？」(p.892～)です。多様なトピックスについて医療者と違う角度からボールを投げ込んでくれる南後先生と、それを受ける近藤先生、そして藤沼先生のやり取りには、私たちプライマリ・ケアの現場におけるたくさんのヒントが詰まっていますので、ぜひお楽しみください。

セクション2 (p.901～) では、臨床、研究、教育のそれぞれの場面における「都市のプライマリ・ケア」における具体的な実践例を紹介しています。「周縁化」「外国人」「ケアの分断」「団地」といったキーワードや、それらを実践するために

セクション3 (p.936～) は、本特集の白眉です。「医師焼き芋」のような医師が診察室から外に出るための取り組みに始まり、銭湯、量り売り＋協働労働、農業×地域づくりなどを非医療者の視点で紹介する「ミクロ」。そして行政がプライマリ・ケアに求めるもの、プライマリ・ケア医同士の連携についての「メゾ」。さらに気候変動という「マクロ」。本特集はあくまで医療が足場なのですが、そこからもう一歩踏み出して、都市のダイナミクスを感じられる内容になっていると思います。

エッセイ①の「都市部と郡部で学べることの違い」(p.960～)と、セクション2⑤の密内論文内にある“1.5 拠点診療のススメ” (p.920) も、ぜひ併せてお読みください。

そしてエッセイ② (p.962～) では、都市の地域包括ケアの最先端を走り続ける新宿・戸山の「暮らしの保健室」(室長：秋山正子先生)の現在を垣間見ることができます。



筆者は15年間の医師生活のうち8年間を郡部で、7年間を都市部で過ごし、16年目に入った今年でちょうど半々くらいになったことに、この「Editorial」を書いていて気づきました。

この15年間にさまざまな場所で出会った方々が原稿を書いてくださった本特集号には、これまでの医師人生で学んだことの半分「都市部のプライマリ・ケア」について、お役に立てることがたくさん詰まっていると思います（そして残りの半分「郡部のプライマリ・ケア」についてはまた別の形でと思います）。

本特集号、ぜひお楽しみください！



人生とは、あるいは生活史とは、要するにそれはそのつどの行為選択の連鎖である。そのつどその場所で私たちは、なんとかしてよりよく生きようと、懸命になって選択を続ける。

（中略）こうしてひとつの、必然としか言いよう

のない、「人生」というものが連なっていくのだ。

（中略）そしてまた、都市というものの自体も、偶然と必然のあいだで存在している。

（岸 政彦『東京の生活史』³⁾より）

文献

- 1) 南後由和：ひとり空間の都市論。ちくま新書，2018.
- 2) 近藤尚己：健康格差の進め方—効果をもたらす5つの視点。医学書院，2016.
- 3) 岸 政彦（編）：東京の生活史。筑摩書房，2021.

かねこ まこと^{1~3)}

- 1) 横浜市立大学大学院データサイエンス研究科ヘルスデータサイエンス専攻
〒236-0027 神奈川県横浜市金沢区瀬戸 22-2
- 2) 横浜市立大学医学部臨床疫学・臨床薬理学講座
- 3) 横浜市寿町健康福祉交流センター診療所

音声で聴く！オマケの編集後記

「都市のプライマリ・ケア」について語ろう！

金子惇・藤沼康樹・密山要用

<https://www.igaku-shoin.co.jp/journal/detail/112526#tab4>

